

2012年9月

わたしたちは、沖縄「普天間基地」に米軍新型輸送機オスプレイが配備されることに反対し、世界で一番危険な基地「普天間基地」の早期閉鎖と返還を要望します。

また新しい米軍基地を建設することに反対し、いのちと平和のためにこそ力を合わせることを、日本の、またわたしたちの使命であると信じます。

## 「剣をさやに納めなさい。剣をとるものは皆、剣で滅びる。」

マタイによる福音書26章52節

わたしたちは日本聖公会に連なる者として、イエス・キリストの教えに従い、一人ひとりのいのちが尊ばれる社会の実現のために、心を合わせて祈り活動してきました。ことに、これまで沖縄の視点から平和の学びを進めつつ、沖縄の米軍基地をめぐる現状に多大な関心を寄せてきました。

この度、日本政府は米国政府・米軍の意向を受け、日米の外務、防衛当局で構成する日米合同委員会において飛行ルールについて大筋で合意し、オスプレイの日本国内での飛行を認める「安全宣言」を出す方針を固めました。それを受けて米軍はオスプレイを一時駐機中の岩国基地において、試験飛行を強行しました。オスプレイは、間もなく岩国基地からから普天間飛行場に移され、10月中に低空飛行訓練を開始されることとなります。

「最初から結論ありき」としか思えないこの判断、また国民の声に聴かずいのちを大切にしない日本政府の対応に怒りを禁じえません。

去る9月9日、沖縄では10万人以上が集まりオスプレイ配備反対の県民大会が開催され、明確に受け入れ拒否を表明しています。

遑って8月米国政府は、ハワイにおけるオスプレイの飛行訓練について現地住民の声を聴き、環境へ配慮し、訓練を中止しました。片や中止されたものがなぜ、沖縄・日本においては安全とされ実施されようとしているのか、私たちには到底理解できません。

さらに配備が計画されている普天間基地は宜野湾市の真ん中にあり、住宅だけではなく病院・保育所など人が集まる施設が多数あり、「世界一危険な基地」と指摘され続けています。米軍と米軍基地の存在がこれまで沖縄の人々に強いてきた圧迫と危険をさらに増大させるこの方針は、日本が選択してはならない大きな誤りであるとわたしたちは考えます。

今わたしたちには、国際社会とくに東北アジアの地域において平和のために努力することこそが緊急に求められています。わたしたちは、沖縄の〈命こそ宝〉という心を大切に思うものとして、今、以下のことを要望いたします。

- ・ オスプレイの普天間基地その他基地への配備を取りやめ、飛行訓練許可を破棄すること。
- ・ 世界一危険な普天間基地の早期返還を実現し、また移設の方針を撤回すること。名護市周辺の住民の間に不安と分裂をもたらすこれらの計画を速やかに中止すること。
- ・ 沖縄における軍事基地のための予算を、平和をつくり出すために用いる予算に転換すること。

日本聖公会正義と平和委員会  
委員長 主教ペテロ洪澤一郎